

連絡協力促進事業

平成21年度文部科学省委託事業「青少年体験活動フォーラム」

中国ブロック青少年体験活動フォーラム in 岡山

平成22年 2月13日(土)～平成22年 2月14日(日)

1. 事業の目的(趣旨・ねらい)

青少年の体験活動の全国的な普及を図るため、その関係者が一堂に会し、青少年の体験活動を推進していくための実践的な研究協議や実践交流を図る機会を提供します。

2. 事業の概要

(1) 日程等

	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
2月13日						受付	基調講演	行政説明	事例発表	情報交換会	入浴	就寝				
						昼食					自由交換会					
2月14日	荷物の整理	朝食	分科会1	昼食	分科会2											

(2) 募集人員

100名

青少年教育関係者、青少年教育施設職員、学校教育関係者、学校教育行政関係者
青少年団体関係者、民間事業者(自然学校等)

青少年教育や青少年の体験活動に興味・関心のある方

(3) 参加者

87人

岡山県43人、広島県17人、鳥取県2人、島根県5人、山口県5人、香川県2人、高知県2人、兵庫県3人、滋賀県1人、奈良県1人、大阪府1人、東京都4人、新潟県1人

(4) 講師等

○基調講演「子どもの現状と体験活動の重要性」

講師 お茶の水女子大学名誉教授 本田 和子

○行政説明「青少年体験活動の推進について」

講師 文部科学省スポーツ・青少年局青少年課青少年体験活動推進専門官 小野 保

○事例発表

- ・「異世代交流や異文化交流を通じて、自主性・社会性をはぐくむ事業」
発表者 国立江田島青少年交流の家 主任企画指導専門職 植田 佳宏



- ・「幼少期の自然体験」
発表者 国立三瓶青少年交流の家 企画指導専門職 八幡 明
- ・「森林での体験活動を行う関係省庁との連携による地域ネットワーク型の体験活動」
発表者 国立山口徳地青少年自然の家 企画指導専門職 杉本 克之
助言者 東京学芸大学准教授 林 尚示
倉敷市少年自然の家所長 眞鍋 洋三

○分科会

A分野 課題解決学習と子どもの成長

第1分科会 事例研究「長期集団宿泊活動を推進するための方策」

事例発表者 広島県福山市立川口東小学校教諭 延近 良祐

助言者 東京学芸大学准教授 林 尚示

司会 株式会社ON-WIPPS代表取締役 田口 眞嗣

第2分科会 実践活動「心を育てる体験活動の指導法」

講師 玉川大学准教授 難波 克己

B分野 外遊びと子どもの成長

第3分科会 講話と実践活動「自然物と遊ぶ＝ツリーイング」

講師 ツリーマスタークライミングアカデミー 岡山ツリーイングクラブ「遊木皆」代表 藤原 基勝

第4分科会 講話と実践活動「外遊び＝伝承遊びの実践と意義」

講師 国立山口徳地青少年自然の家所長 宇田川 光雄

(5) 企画・運営のポイント

- 「体験活動フォーラム」の企画・運営については、「旧青少年教育3法人が有していた人的・物的・知的資源を融合・活用する」機会と捉え、ブロック内の各施設が共同で行うこととし、本事業を通じて連絡協力の体制の構築を目指す。
- ブロック内の施設で実施した事業の成果を事例として取り入れ、参加者に対して、今後開催する事業の広報を行ったりするなど、施設で実施することの特色を出す。
- 本プロジェクトを実施した施設の実践事例をもとにした研究協議など、事業の成果を普及するためのプログラムを組み入れることを必須とする。
- 参加者に対し、事前に、参加者の心身の健康状態・身体的特長等特に配慮すべきことについては把握し、事業中については、新型インフルエンザが流行していたので、受付時に健康状態についてヒアリングを行い、朝、健康観察を行うとともに、参加者を注視し心身の健康状態を把握する。

3. 活動の内容等

○1日目の全体会

<基調講演> 「子どもの現状と体験活動の重要性」についてお話していただいた。先行き見えない子どもの現状について、体験活動には情報収集・選択能力の必要性、身体感覚を取り戻す必要性、体を使ったコミュニケーションの必要性などについてご講義いただいた。

＜行政説明＞ 青少年の課題に対する健全育成施策等の説明があった。

＜事例発表＞ 青少年の課題に対応した事業の事例発表に基づき、質疑応答により事業の理解を図るとともに、助言者から事業毎のまとめの助言があった。

○「展示コーナー」 中国ブロックの国立青少年教育振興機構3施設、岡山市立自然の家、岡山ツリーイングクラブ、岡山県瀬戸内市のカリヨンハウスなどから、各施設の取り組みのパネルやパンフレット、クラフトの作品展示などを行った。

○情報交換会

○2日目の分科会

＜第1分科会・事例研究（午前のみ）＞ 川口東小学校の2年間の活動について報告があった。その中で、21年度は活動をマニュアル化したこと、「ふりかえり」の時間を重視したこと、「体験したことが学びに変わらなければ意味がない。」こと、また、事後の評価としてIKR調査数値などの報告もあった。

その後、長期宿泊研修の経験者組と未経験者組に分かれ「企画面」「運営面」「安全面」等についてグループ討議を行った。

＜第2分科会・実践活動（午前・午後）＞ 体験活動の指導法として必要な知識技術について、習得した。

＜第3分科会・講話と実践活動（午前・午後）＞ 非日常的な活動（ツリーイング体験）を実践し、体験活動から環境学習への発展系としての活動を行った。

＜第4分科会・講話と実践活動（午後のみ）＞ 宇田川講師から人形劇が披露された。その後、広場に出て、昔ながらの遊びである「陣取り」や「石蹴り」等を行い、新しいルールを作ることが課題解決につながることを実体験した。



4. 成果・課題

（1）成果

- ・ 事前に実行委員会(事前打合せ会)を中国ブロックの国立4施設（江田島、三瓶青少年交流の家及び吉備、山口徳地青少年自然の家）から担当者を集めて開催したことにより、フォーラムの趣旨にあった事業に企画することができたこと及び運営面では事例発表や分科会での役割分担に協力してもらえたことで、統合のメリットを生かした連携協力を推進できる事業となった。
- ・ これまで中国ブロックでは青少年の体験活動を推進するフォーラムは実施しておらず、今回青少年体験活動関係者が一堂に会し、実践的な研究協議・実践交流を行ったことで、参加者からは体験活動の成果がフォーラムで広まることが良いことである。また、この事業が継続して実施できる仕組みづくりが重要との意見があった。
- ・ 青少年の課題に対応した実践事例の発表及び分科会での子どもの長期集団宿泊活動の事例に基づく事例研究、実践活動では「心を育てる体験活動の指導法」、外遊びに着目した講話と実践活動など様々な体験活動に関する情報と実践を提供できたことで、参加者に大きな成果を得ることができた。
- ・ 学校教員、青少年教育施設職員、青少年団体関係者及び青少年教育に関心のある大学生など多種多様な指導者が参加したことで、垣根を越えた情報交換が行われ、今後の青少年体験活動の発展が見込まれるフォーラムであった。

～アンケート集計～

○研修全体を通した満足度

満足・・・77% やや満足・・・23%

(計100%)



第2分科会



第3分科会



第4分科会

(2) 参加者の声

- ・このような形で、体験活動の成果が広まっていくことが、とても良いと感じました。職員の皆様、誠にありがとうございました。
- ・私自身まだ青少年にあたりますが、今の時期に今回の事業に参加させていただけてとても良かったなと感じました。1日目の事例発表では具体的な事業や参加者の様子を現代の子どもが置かれている環境をふまえながら知ることができ、これからの職場へ、自分へ活かしていきたい情報を得ることが出来ました。2日目の分科会も非常に楽しみながら得るものも多く、あっという間の1日でした。色々とお迷惑おかけすることも多かったです、親切に対応してくださってありがとうございました。
- ・様々な所から集まっていろんな人の話がきけてよかったです。発表されていた実践も非常によく考えられていて、自分の今後の活動に役立てたいと思います。ありがとうございました。
- ・実際に自分で体験できることと理論があり、期待した以上に勉強になりました。今回は部分参加でしたが、機会があればまた参加して活動を学びたいと思いました。講師の方々、企画運営してくださった皆さんお疲れさまでした。ありがとうございました。
- ・教育旅行受入れの立場から勉強のため、参加しました。受入れ側からではなく、学校側からの意見を聞くことができとても良かったです。
- ・実践を行ってそれで終わりというわけではなく、裏づけされている理論を教えていただいてよかったです。

(3) 今後の課題等

- ・教員の参加を増やすための工夫をさらに強化する。第一分科会には教員の参加がもっと欲しかった。
- ・委託事業の事例発表について、予算もスタッフも少ない公立施設や民間、学校の取組が入れば、幅広い参加者に対応でき相互連携についての協議も深まるのでないだろうか。
- ・事例発表については、当日は予定された時刻を超過し、休憩時間を省略するなどをして、参加者からの協力をお願いしていたが、最後の発表者の時間を確保するためにもタイムキーパーを付け、時間を知らせるなどの方策が必要であると感じた。
- ・充実した内容の研修であったが、スケジュールがタイトで、アンケートを書く時間さえ十分とれず、アンケートへの記述が不十分になった可能性がある。振替の休みを取れない参加者のことを考えても若干ゆったり感が必要である。

5. 事業の総括

中国ブロックで初めてのフォーラム開催であり、参加者からの評価は高く、青少年の体験活動の推進のため、指導者間の交流・交歓を今後、定期的実施する必要がある。

担当：主任企画指導専門職 中吉 浩一郎
企画指導専門職 新田 治彦